

JA 全農福島

アスパラをを広域選果

安定出荷、ブランド価値向上へ

福島県の主要品目のひとつがアスパラ。出荷時期は3月～10月上旬頃だが、とくに出荷量が増加する5月中旬頃は、九州産から北海道産へと移行する間の産地として消費地に供給する役割を担う。県生産量の9割を占めるのが県西部の会津地区。JA全農福島では2005年に「会津アスパラカス広域選果施設」（会津若松市）を設置し、選別・出荷作業を行っている。生産者の労力軽減だけでなく、量がまとまることでより安定供給が可能となりブランド価値の向上につながっている。さらに17年からは、市場のニーズが高い100℃未満の出荷も開始。また、JGAP認証の取組みも進んできている。



2ラインを備える選果施設

福島県では昭和30年代頃からホワイトアスパラ、40年代頃からグリーンアスパラの栽培が始まった。ただ、アスパラは手作業による収穫で、ピーク時になると早朝から1日中作業となる。さらに自身で調整・選別、出荷作業をする場合は夜遅くまでかかることも。生産者の高齢化も進む中、労働環境を改善し、さらなる生産振興を図るために広域選果施設を整備した。

今年度はJA会津よつば（16年に4JAが合併）管内の生産者619人のうち241人が利用する。選果施設では、荷受け後2ラインで選別。26℃に根切りした後カメラセンサーで偏平、穂先の開き、曲がり、重量などを測定し、等級別に振分け。選別ラインと連動した全自動結束機がキズをつけないように結束する。

自動結束機は7台あり、1台1時間当たり1200束の結束が可能だ。また、出率の低い等級や特殊な組み合わせものは3台ある組合わせの結束機で作業する。選果能力は1時間あたり60コソテナ（1コソテナ10ギ）、L、Mは100ギ（4・5ギ）となる。

これらは品温10～12℃に予冷し、「会津アスパラ畑」の名称で県内、京浜を中心に11市場に向けて出荷する。昨年度的全農福島扱いの出荷量は743ト（前年度比4%減）。会津よつば管内は667ト（4・6%減）で、このうち261トが選果施設を利用した。今年度の会津よつば管内の出荷計画795ト、このうち選果施設の利用は288トを計画する。

施設化を推進

さらに、全農福島では、圃場の施設化を推進している。雨除けハウスでの栽培が増えてきており、会津よつば管内のあいつ西部地区では4割程度にまで進んできた。施設化することで病気になるリスクも減少し、収穫量も増加する。

品種を国内で主力とする

品種は国内で主力の「ウェルカム」中心だが、早期の収穫が可能で、作期が長い県オリジナル品種「ふくきたる」の作付けを増やす生産者もいる。また、JGAP認証の取得に向け、同JAのみどりの地区で部会員2人が取組みを進めている。

農経新聞

令和元年(2019)9月9日